

シラバス

授業科目名	年度	学期	開講曜日・時限	学部・研究科など	担当教員	配当年次	単位数
社会情報学演習(3) (8)	2020	通年	水4	文学部・社会学専攻, 社会情報学専攻(情報コミュニケーションコース), 社会情報学専攻(図書館情報学コース)	宮野 勝	3年次配当	4

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

調査の企画から報告書の作成まで調査の全過程を実習を通じて体験的に学習します。

- ・前期は共通調査を中心とし、後期は個人研究を中心にするのを、考えています。
- ・共通調査は、3年生を中心とする質問紙調査(学生を対象)となる予定です。
- ・前期の4年生は、共通調査へのアドバイス・コメント・サポートをしつつ、個人研究を進め、適宜発表します。
- ・個人研究のテーマと調査方法については自由度が高く、相談して決めます。コンピュータを用いたデータ分析や質問紙調査などだけでなく、シミュレーションを中心とした研究やインタビュー・参与観察などを用いた研究も歓迎します。

科目目的

社会を調査して意味のある情報を新たに創り出す方法を、体験的に学習します。

到達目標

授業計画と内容

【前期】

- 第1回 ガイダンスと日程の検討
- 第2回 共通調査テーマの選定・仮説の検討
- 第3回 テーマと仮説の決定・調査質問案の提案
- 第4回 関連文献の報告・調査質問項目の確定
- 第5回 調査票の作成
- 第6回 調査票の確定・調査実施の確認
- 第7回 データの入力
- 第8回 データのクリーニング・分析計画の提案
- 第9回 単純集計と基本統計量の算出・分析作業の確認
- 第10回 分析Ⅰ(クロス集計表)
- 第11回 分析Ⅱ(多変量解析の実施等)
- 第12回 分析結果の相互報告と討論(1)
- 第13回 分析結果の相互報告と討論(2)
- 第14回 前期の総括

【後期】

- 第1回 日程の確認・個人研究のジャンル選び
- 第2回 先行研究調べ
- 第3回 テーマ設定
- 第4回 仮説設定
- 第5回 インタビュー調査の方法
- 第6回 質問紙調査の方法
- 第7回 データ分析の方法
- 第8回 論文・レポートのまとめ方
- 第9回 論文アウトラインの作成方法
- 第10回 結論の書き方
- 第11回 プレゼンテーションの方法
- 第12回 議論・ディベートの方法
- 第13回 論文・レポート編集の方法
- 第14回 総括

授業時間外の学修の内容

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

前期は共通調査を中心とし、後期は個人研究を中心とし、共通調査と個人研究を、それぞれレポートにまとめる予定です。それに伴い、諸々の授業時間外の学習が必要となります。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準（備考）

ゼミ参加（発言・発表・レジュメ・調査貢献度など）50%、課題・ゼミレポート50%。

この評価が低い場合以外に、以下の場合も、E判定とします。

- 1)出席率が66%に満たない場合（遅刻・早退は、完全出席にはなりません。）
 - 2)卒業研究論文(4年生)・ゼミ論文（3年生）を、締切り日時までに未提出の場合
 - 3)卒業研究論文(4年生)・ゼミ論文（3年生）の、形式・内容が不十分な場合（剽窃は、論外です。）
- なお、卒業研究論文は、卒業論文での代替を認めます。

課題や試験のフィードバック方法

課題や試験のフィードバック方法（その他の内容等）

アクティブ・ラーニングの実施内容

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他の内容等）

授業におけるICTの活用方法

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

【実務経験有の場合】実務経験の内容

【実務経験有の場合】実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>

盛山和夫 2004 『社会調査法入門』 有斐閣

<参考文献>

酒井聡樹 2007 『これからレポート・卒論を書く若者のために』 共立出版

今田高俊編 2000 『社会学研究法：リアリティの捉え方』 有斐閣

その他特記事項

- ・参加予定者は、何について調査したいかを考えておいてください。
- ・「モデリング」、および、「データ解析A・B」を未履修の場合、本演習と並行して履修することを強く勧めます。
- ・適宜、個人面談を行います。
- ・夏合宿を予定しています。
- ・授業の予定は進行状況などに応じて変わることがあります。

参考URL

コメント1

コメント2

- ・少なくとも前半は遠隔授業になります。Webexとmanabaを併用する予定です。
- ・3年生も4年生も、「モデリング」、および、「データ解析A・B」を未履修の場合、特段の理由がなければ、本演習と並行して、ぜひ履修してください。
- ・遠隔授業の間、水曜日の4時限目は、webexやmanabaでお会いする予定です。問いを投げかけ、スレッドやレポートに書き込んでもらうことも考えています。
- ・テキストは、盛山和夫 2004 『社会調査法入門』 有斐閣、とします。このような時期ですので、生協での購入は難しいかもしれません。その場合、各自、ネット書店などで入手してください。
- ・遠隔授業は初めての試みですので、進行状況をチェックしつつ、進め方を模索することになります。
- ・なお、以上についても、今後の情勢次第でさらに変更があり得ます。

コメント3

コメント4
